

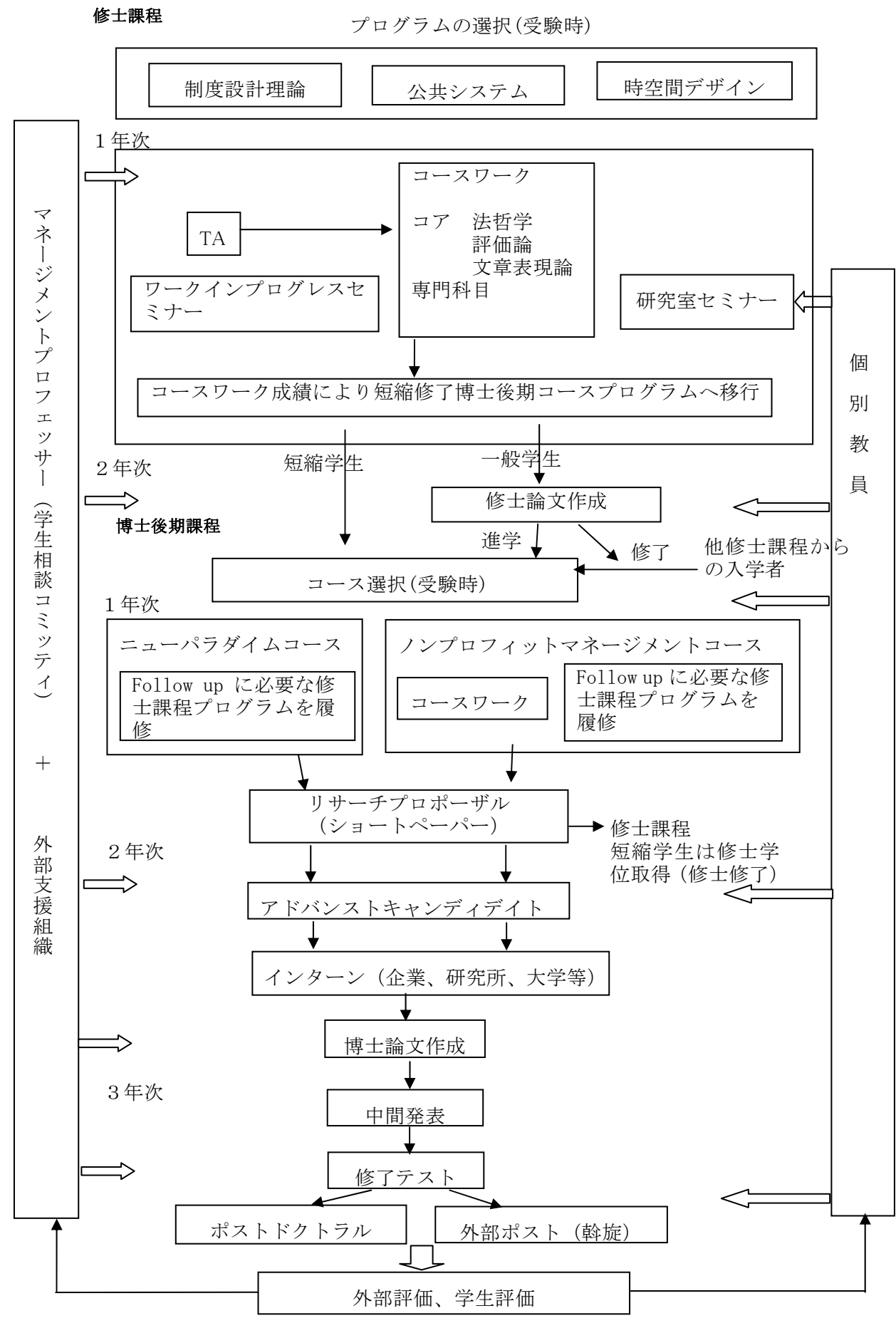
平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	東京工業大学	整理番号	b015
1. 申請分野(系)	理工農系		
2. 教育プログラムの名称	社会イノベーション・リーダーの養成 (ゲーム理論と実験・社会調査の統合アプローチ)		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 社会・安全システム科学、経済学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (社会工学、社会システム、応用経済学、公共経済学、OR)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 大学院社会理工学研究科社会工学専攻 [修士課程、博士後期課程]	研究科長(取組代表者)の氏名 牟田 博光	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>東京工業大学では第二次世界大戦後、人文社会科学分野の重要性をいち早く認識し、その強化に理系独自の視点で取り組んできた。それは人文社会科学群制度の導入、経営工学コース設置であり、また1966年の社会工学科創設である。社会工学科は人文社会科学群教員と工学部教員が対等な関係で作った我が国最初の文理融合学科である。その後も人文社会科学教育研究の強化を続け1996年には社会理工学研究科の設置を行っている。本取り組みはこの流れに沿うもので、平成16年度からの中期計画に明記され、平成16年度学長裁量経費を社会工学専攻に配分し、カリキュラム開発、設備の充実のために強力な支援を行っている。さらに平成17年度4月1日付けで社会工学専攻の大幅な改組を行い、当該提案が実行できる体制を基本的に作り上げたところである。本年度においても引き続き学長裁量経費を充当し、且つ本取り組みを実行するための教員人事を進めている。</p>			

機 関 名	東京工業大学	整理番号	b015
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>社会工学専攻では設立以来、一貫して新しい社会科学の理論の模索としてのゲーム理論の導入、実践知と理論知の融合をはかり、38年にわたりゲーム理論、経済学、社会調査などに関わる教育研究活動を行ってきた。とくに1996年の社会理工学研究科設立時から、人文社会科学の中心を成す経済学分野の強化を進め平成17年度4月の改組では協力ゲーム理論、制度設計理論(実験経済学)を社会工学専攻の分野とした。また空間研究教育をより深化させるため、歴史学と空間デザイン学を統合した新しい人文科学である歴史空間分野の開設も新たに行い、理系における人文社会科学の強化をはかったところである。さらに、平成16年度には学長裁量経費の支援を受け、大学院を社会のニーズにあうように大幅に改組するためシンポジウム「社会イノベーションとその実践」(平成17年5月10日)(基調講演(社会共通資本としての社会イノベーション;宇沢弘文氏(東京大学名誉教授))、パネラー:渡辺孝芝浦工業大学教授、ハリ・スリニバス(国連環境計画企画官)、岸本幸子(特定非営利活動法人パブリックリソースセンター事務局長)、前田 正尚(日本政策投資銀行政策企画部長)の各氏)、および理論に関する「文理融合による制度設計理論シンポジウム」(平成17年3月8日)(パネラー:八田達夫国際基督教大学教授、奥村洋彦学習院大学教授、金田充弘ジョージタウン大学助教授の各氏))を実施し、また制度設計理論の基本になるゲーム理論、実験経済学及び、実験計量経済学の実験講義(神取道宏東大教授他)を外部に完全にオープンな形で平成17年3月に行った。これらのシンポジウム、実験講義を通して、大学院改組の社会的意義、ニーズ、講義法などについて検証を行い、その大きな社会的効果が確認できた。その結果を用いて平成17年5月にはカリキュラム改訂作業を終え、平成18年度の修士課程入試方法・内容も一新した結果、入学希望者は倍増した。既に一部講義は、平成17年度より前倒しで実施している。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>本取り組みは基本的に理系の学部卒業生を主に対象とし、修士課程に制度設計理論(ゲーム理論、経済学、認知科学)、時空間デザイン、公共システムの3つのプログラムを設置し、そのうち1つを学生が選択し徹底したコースワークで人文社会科学を学ぶ。その上後期課程で、実践的研究者を育成するノンプロフィットマネージメントコースと理論研究を目指したニューパラダイムコースのいずれかのコース(定員は総定員の1/2ずつ)に属し、リサーチプロポーザルによって創造性豊かな萌芽的研究を提出し、コースワーク成績など総合的判断によりアドバンストキャンディデイトとなる。インターン等社会的な活動を経た後、学位論文を書き上げノンプロフィット組織(大学、研究所、政府、自治体、NPO、NGO、国際機関、企業のCRS(社会的責任部局))で社会イノベーションを引起す自立した研究者を目指す。ノンプロフィットマネージメントコースでは社会イノベーションの組織論、ノンプロフィット組織の経営論、インターン科目である社会イノベーション活動特別演習など8科目を用意する。学生の適性と実績によって修士課程入学から3~4年でも博士学位が取得できるようにする一方で博士後期課程からの入学者、社会人に対しては期間延長を含めて柔軟に対応し得るようにする。なお本取り組みの強化のため運営管理面で、特に1) マネージメントプロフェッサー制の導入、2) 外部支援組織(設備投資研究所、国連環境計画等)との密接な関係の構築をはかる。</p>			

6. 履修プロセスの概念図



機 関 名	東京工業大学	整理番号	b015
<p data-bbox="165 203 587 235">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 300 1430 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 492 491 524">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 539 1430 616">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 633 1225 665">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 683 1430 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 920 633 952">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 969 1430 1142" style="list-style-type: none"> ・経済学と工学の両方を学ぶ大学院というユニークな試みに挑戦している専攻の目的は重要であり、それを達成するための取り組みはバランスが取れており、評価できる。 ・ただし、社会イノベーションの定義について、やや具体性に欠けていることから、更なる検討が必要である。 			